

古典の中の人とからだ(6)

—『申命記』の中から—

平 沢 彌一郎*¹⁾・白 井 永 男*²⁾

Man and Body Described in the Classics (6)

—Man and body described in the book of “Deuteronomy”—

Yaichiro HIRASAWA and Nagao USUI

ABSTRACT

The purpose of this paper is to pick out all of the words concerning humans and the human body in the book of “Deuteronomy.” A total of four hundred such words are used in this book. The words found to be used most frequently are as follows :

1. Words referring to the human body are used 161 times. Among these words, the word “hands” is used 63 times and the word “eyes” is used 20 times.
2. Words referring to life are used 128 times. Among these words, the word “kill” is used 47 times and the word “die” is used 25 times.
3. Words referring to the condition of the body are used 64 times. Among these words, the word “birth” is used 9 times and words relating to creation are used 8 times.
4. Other words concerning humans and the human body are used 47 times. Among these, the word “body” is used 26 times and the word “blood” is used 17 times.

By carefully examining the use of the words in this book, we come to the following conclusions as to why the words were used so many times :

1. These words indicate that the God Yaweh told the Jews to devote themselves to him and obey him from the bottom of their hearts.
2. Many words relating to the human body are used in “Deuteronomy.” However, these words do not have the same meaning as used in the contexts of either the Greek era or modern times.

I. はしがき

神の恩寵によってイスラエルは選ばれた。その故に、「神の選民」 ^{アムハアレツ} אֱמְחָרֵץ として、神に対する決定的態度を迫る精神をもって貫かれているのが申命記である。そこから、礼

*¹⁾ 放送大学教授 (保健体育)

*²⁾ 放送大学助教授 (保健体育)

拝集中という至上命令が下された。従って、その書き出しから明らかなように、説得的な説教調であり、終始イスラエルが選民であることを強調し、神への節操ある信仰を勧め、その律法によって真実に生きることを解く。また、人への愛はきわめて具体的である。

この申命記の中には、「人とからだ」に関する用語が数多く用いられている。本研究は日本聖書協会訳の申命記の中で、それらの用語の使用箇所をくまなく拾い上げて、これらを分類し、これらから、「人とからだ」との関わりについて考察することがその目的である。その結果、次の事柄が明らかになった。

- (1) 身体各部位に関する用語は 161 回で、最も多い用語は「手」 יָד (63 回)、次いで「目」 עֵינַי (20 回) であった。
- (2) 生命に関する用語は 128 回で、最も多い用語は「殺す」 מוֹת (47 回)、次いで「死ぬ」 מָוַת (25 回) であった。
- (3) 身体の状態に関する用語は 64 回で、最も多い用語は「産む」 יָלַד (9 回)、「生む」 יָלַדְתִּי (8 回) であった。
- (4) その他の用語は 47 回で、最も多い用語は「身」 גִּבְעוֹן (26 回)、次いで「血」 דָּם (12 回) であった。

現今の申命記の成立は、前 5 世紀頃と思われるが、その中核ともなるべき部分は、すでに 7 世紀前半に書かれていたものと推定され（いわゆる原申命記）それがユダの王ユシヤの時代に神殿で発見されたものであろう。申命記は、イスラエル最古の法令集（契約書）である。また、カナンの地を目前にして、死ななければならなかったモーセの訣別説教でもある。それは、ヤハウエがホレブ（シナイ）で、イスラエルと結ばれた契約を民が破ったあと、その契約の更新として、ヤハウエがモーセを通じてモアブの地で、イスラエルの人びとに結ばれた契約を示すものである。

申命記の神学は、原理的には「選び」 בָּחַר (7:6, 7, 14:2 他) に基づいて「神の民」の神学である。しかし実際的には「書物宗教」への傾斜を内包している。「ユダヤ教は申命記と共に始まる」と言われたのは、そのためである。従って、本書の中には、「ひとりの神」、「一つの民族」、そしてただ「一つの祭儀」という、イスラエルの古い伝統的思想が、新しい状況をふまえて、力強く生かされている。

本書における「人」とは、言うまでもなくその冒頭に記してあるように、「イスラエルのすべての人」である (1:1)。その人びとは、神に選ばれた「人」たちである。その「人」たちが、神を忘れ、反逆して、ついに墮落の底に没ち込んでゆく。ヤハウエはモーセを通じて、イスラエルのひとりびとりの魂の復興について、きわめて具体的な「戒め」を与える。その「戒め」は、まず、彼らの「からだ」を通して与える。しかも、それは今生存しているイスラエルの人びとだけに与えるだけのものではなく、決してないのである。

9 רַק הַשְׁמַר לְךָ וּשְׁמַר וּנְשָׂא כְּאִדּוֹ פְּנֵי תְּשַׁבַּח
 אֶת־הַדְּבָרִים אֲשֶׁר־רָאוּ עֵינֶיךָ וּפְנֵי־יָסוּרֶיךָ מִלִּבְּךָ כֹּל יְמֵי חַיֶּיךָ
 וְהוֹדַעְתָּם לְבְנֶיךָ וּלְבְנֵי בְנֶיךָ :

ただ、まず、きみ自身が気をつけなさい。そして、きみの魂を守ること。そして、すでにきみが見たあのかげを忘れるな。それを、きみが生きながらえている間、きみの心から絶対に離してはならない。またさらに、それらのことを、きみの子々孫々にいたるまで、告げ伝えなければいけない。(4:9) [平沢訳]

But take good care : be on the watch not to forget the things that you have seen with your own eyes, and do not let them pass from your minds as long as you live, but teach them to your sons and to your sons' sons (4 : 9)

[THE NEW ENGLISH BIBLE 1970]

申命記の序説 (1-11 章) は、十戒 (5 章) と唯一神への絶対服従 (6 章) を勧めつつ、ホレブから東ヨルダンまでの旅を回顧し、カナンへの展望を語る。中核部分 (12-26 章) はモアブでの契約律法である。結論的部分 (28-30 章および 31-32 章中の数節) は、あらためて律法服従を勧告し、祝福と呪いを述べ、最後にモーセの歌 (32 章) で結んでいる。付録の「モーセの祝福」(33:1-29) は、古くから伝えられた詩であり、「モーセの死」(34:1-12) は、多くの資料や伝承を寄せ集めたものである。本来ならば民数記の最後に来るべきものを、五書の編集者が、イスラエルに対する「モーセの訣別説教」(申命記の主要部分) の後にもってきたのである。

本書の中で、イスラエルの「人」と「からだ」との関わりを、最も簡明に記している箇所の一つに 6:4-9 がある。

4「イスラエルよ聞け、われわれの神、主は唯一の主である。 5あなたは心をつくし、精神をつくし、力をつくして、あなたの神、主を愛さなければならない。 6きょう、わたしがあなたに命じるこれらの言葉をあなたの心に留め、 7努めてこれをあなたの子らに教え、あなたが家に座している時も、道を歩く時も、寝る時も、起きる時も、これについて語らなければならない。 8またあなたはこれをあなたの手につけてしとし、あなたの目の間に置いて覚えとし、 9またあなたの家の入口の柱と、あなたの門とに書きしるさなければならない。」(日本聖書協会)。

イスラエルの「人」たちにとって、神への絶対服従とは、その「人」の全身全霊を、神に提供することであったのである。

II. 各章・節に使用されている用語

章と節	使 用 箇 所
1: 4	バシャンの王オグを殺した
1: 7	身をめぐらして道を進む
1: 17	人の顔を恐れてはならない
1: 24	彼らは身をめぐらして
1: 25	その地のくだものを手に取って
1: 27	アモリびとの手に渡し
1: 30	あなたがたの目の前で
1: 40	あなたがたは身をめぐらし
1: 41	おのおの武器を身に帯びて
1: 45	あなたがたに耳を傾けられなかった
2: 1	われわれは身をめぐらし
2: 3	身をめぐらして北に進みなさい
2: 5	彼らの地は、足の裏で踏むほどでも
2: 14	その世代のいくさびとはみな死に絶えて、宿営農地にいなくなった
2: 15	主の手が彼らを攻め…彼らはついに死に絶えた
2: 16	いくさびとがみな民のうちから死に絶えたとき
2: 24	その国とを、おまえの手に渡した
2: 30	主が彼をあなたの手へ渡すため
2: 33	そのすべての民とを撃ち殺した
3: 1	われわれは身をめぐらして
3: 2	その地をおまえの手に渡している
3: 3	われわれの手に渡されたので、われわれはこれを撃ち殺した
3: 21	あなたの目はあなたがたの神、主が
3: 24	あなたの強い手とを
3: 27	ピスガの頂に登り、目をあげて西、北、南、東を望み見よ
4: 3	あなたがたの目は
4: 9	目に見たことを忘れず、生きながらえている間
4: 10	地上に生きながらえる間
4: 12	声ばかりで、なんの形も見なかった
4: 15	あなたがたはなんの形も見なかった
4: 19	あなたはまた目を上げて天を望み
4: 22	わたしはこの地で死ぬ
4: 25	あなたがたが子を生子…主の前に悪をなして
4: 26	その所で長く命を保つことができず
4: 28	人が手で作った
4: 32	神が地上に人を造られた日からこのかた
4: 33	聞いてなお生きていた民がかつてあったであろうか
4: 34	あなたがたの目の前に…強い手と、伸ばした腕と
4: 40	長く命を保つことができるであろう
4: 42	あやまって隣人を殺した者を…命を全うさせるため
5: 1	あなたがたの耳に語る定めと、おきてを聞き

5: 3	ここに生きながらえているわれわれすべての
5: 4	あなたがたと顔を合わせて語られた
5: 15	主が強い手と、伸ばした腕とをもって
5: 16	あなたが長く命を保ち
5: 17	あなたは殺してはならない
5: 24	しかもなおその人が生きているのを見ました
5: 25	なぜ死ななければ…われわれは死んでしまうでしょう
5: 26	およそ肉なる者のうち…生ける神の声を…なお生きている者
5: 33	あなたがたは生きることができ…長く命を保つことができる
6: 2	あなたの生きながらえる日の間…長く命を保つことのできるため
6: 8	あなたの手につけて…あなたの目の間に置いて
6: 21	主は強い手をもって
6: 22	主はわれわれの目の前で
6: 24	われわれを守って命を保たせるため
7: 8	主は強い手をもって…パロの手から
7: 15	すべての病を…エジプトの悪疫にかからせず
7: 19	目で見た大いなる試みと…強い手と、伸ばした腕とを
7: 24	あなたの手に渡される
8: 1	そうすればあなたがたは生きることができ
8: 3	パンだけでは生きず、人は主の口から出るすべてのことばによって生きる
8: 4	あなたの足は、はれなかった
8: 17	自分の力と自分の手の働きで
9: 10	主は神の指をもって書きしるした
9: 15	わたしは身をめぐらして…板二枚はわたしの両手にあった
9: 17	両手から投げ出し、あなたがたの目の前でこれを砕いた
9: 18	主の目の前に悪をおこい
9: 26	強い手をもって
9: 27	目をとめないでください
9: 28	荒野で殺した
9: 29	大いなる力と伸ばした腕とをもって
10: 3	二枚の板を手にもつて
10: 5	わたしは身をめぐらして
10: 6	アロンはその所で死んで
10: 16	心に割礼をおこない
10: 21	あなたが目に見た
11: 2	強い手と、伸べた腕とを知らず
11: 9	長く生きることができ
11: 10	足でそれに水を注いだ
11: 12	あなたの神、主の目が常にその上にある
11: 18	それを手につけて、しるしとし、目の間に置いた
11: 24	足の裏で踏む所は皆
12: 18	手を労して獲るすべての物を
12: 19	あなたが世に生きながらえている間
13: 5	夢みる者を殺さなければならない
13: 6	身命を共にする友が
13: 9	彼を殺さなければ…殺すには…手を下し…みな手を下さ

13:10	撃ち殺さなければならない
13:15	つるぎの刃にかけて撃ち殺し
13:17	あなたの手に留めおいてはならない
14:1	死んだ人のために自分の身に傷をつけては…額の髪をそっては
14:25	その金を包んで手に取り
14:29	あなたが手で行うすべての事に
15:7	手を閉じてはならない
15:8	必ず彼に手を開いて
15:10	すべての事業と、手のすべての働きにおいて
15:11	手を開かなければならない
15:13	から手で去らせてはならない
15:17	きりを取って彼の耳を戸に刺さなければならない
16:15	主はすべての産物と、手のすべてのわざとにおいて
16:16	から手で主の前に出てはならない
16:19	賄賂は賢い者の目をくらました
16:20	あなたは生きながらえて
17:5	石で撃ち殺さなければならない
17:6	殺すべき者を殺さなければならない…殺してはならない
17:7	殺すには、証人がまず手を下し…手を下さなければならない
17:8	血を流す事
17:12	その人を殺して
18:11	口寄せ、かんなぎ、死人に問うことをする者が
18:20	その預言者は殺さなければならない
19:3	すべて人を殺した者を
19:4	人を殺した者が…命を全うすべき場合…隣人を殺した場合
19:5	手におのを取って…死なせたような場合…命を全うする
19:6	その殺した者を追いかけ…殺すであろう…殺される理由はない
19:10	罪のない者の血が…その血を流した
19:11	その人を撃ち殺し
19:12	殺さなければならない
19:13	罪のない者の血を流したとがを
19:21	命には命、目には目、歯には歯、手には手、足には足をもって
20:5	彼が戦いに死んだとき
20:6	彼が戦いに死んだとき
20:7	彼が戦いに死んだとき
20:13	あなたの手にわたされる時…みな撃ち殺さなければならない
20:16	息のある者をひとりも生かしておいてはならない
21:1	殺されて…誰が殺したのかわからない
21:2	その殺された者のある所から
21:3	その殺された者のある所に
21:6	その殺された者のある所に…雌牛の上で手を洗い
21:7	手はこの血を流さず、われわれの目もそれを見なかった
21:8	血を流したとが…血を流したとが
21:9	血を流したとが
21:10	あなたの手にわたされて
21:12	女は髪をそり、つめを切り

21:15	男の子を産み…気にいらぬ女の産んだ者
21:16	気にいらぬ女の産んだ…愛する女の産んだ子
21:17	気にいらぬ女の産んだ子
21:18	手に負えない子
21:20	手に負えません…身持ちが悪く
21:21	彼を石で撃ち殺し
21:22	人が死にあたる罪を犯して殺され
21:23	その死体を木の上に留めておいてはならない
22:8	血のとがをあなたの家に帰する
22:12	身にまとう上着の四すみに
22:14	彼女に処女の証拠を見なかった
22:15	彼女に処女の証拠を取って
22:17	処女の証拠を見なかった…娘の処女の証拠です
22:20	処女の証拠がみられない時
22:21	石で撃ち殺さなければならない
22:22	女と寝た男およびその女と一緒に殺し
22:23	処女である女が
22:24	石で撃ち殺さなければならない
22:25	その男だけを殺さなければならない
22:26	死にあたる罪…それを殺したと同じ事件
22:28	婚約しない処女である女
23:1	すべて去勢した男子は
23:8	彼らが産んだ子どもは
23:10	身の汚れた人が
23:11	水で身を洗い
23:23	あなたが口で言った事は…あなたが口で約束した事は
23:25	手でその穂を摘んで
24:1	彼女の手へ渡し
24:3	その手へ渡して…夫が死んだときは
24:4	すでに身を汚したのちである
24:6	命をつなぐものを質にとる
24:7	かどわかした者を殺して
24:8	らい病の起った時は
24:16	子のゆえに殺される…父のゆえに殺される…罪のゆえに殺される
25:3	あなたの目の前で
25:5	ひとりが死んで…その死んだ者の妻は
25:6	初めに産む男の子に、死んだ兄弟の名を
25:9	目の前で…足のくつを脱がせ、その顔につばきして
25:11	打つ者の手から…手を伸べて
25:12	その女の手を切り落とさなければならない
25:15	長く命を保つことができる
26:4	あなたの手からそのかごを受け取って
26:8	主は強い手と、伸べた腕と
26:14	汚れた身で…死人にそれを供えた
27:15	工人の手の作である刻んだ像
27:18	盲人を道に迷わす者は

27: 24	隣人を撃ち殺す者はのろわれる
27: 25	罪なき者を殺す者はのろわれる
28: 4	あなたの身から生まれるもの
28: 8	あなたの手のすべてのわざにくだし
28: 11	あなたの身から生まれるもの
28: 12	あなたの手のすべてのわざを
28: 17	あなたの身から生まれるもの
28: 20	あなたが手をくだすすべての働きに
28: 21	主は疫病をあなたの身につかせ
28: 22	主はまた肺病と熱病と炎症と間けつ熱と
28: 23	頭の上の天は青銅となり
28: 26	あなたの死体は
28: 27	エジプトの腫物と潰瘍と壊血病とひぜんとを…いやされることはない
28: 28	気を狂わせ、目を見えなくし、心を混乱させられる
28: 29	盲人が暗やみに手探りするように、真昼にも手探りする
28: 31	牛が目の前でほふられても…ろばが目の前で奪われても
28: 32	手を施すすべもない
28: 34	目に見る事柄によって、気が狂う
28: 35	あなたのひざと、はぎとに悪い、いやし得ない腫物を生じさせて、足の裏から頭の頂にまで
28: 40	その油を身に塗ることができない
28: 41	むすこや、娘があなたに生まれても
28: 48	裸になり…鉄のくびきをあなたのくびにかけ
28: 50	顔の恐ろしい…老人の身を顧みず
28: 54	自分のふところの妻
28: 55	自分の子供を食べ、その肉を少しでも
28: 56	足の裏を…自分のふところの夫や
28: 57	自分の足の間からでる後産や、自分の生む子をひそかに食べる
28: 59	その病気は重く
28: 60	あなたが恐れた病気…もろもろの病気を再び臨ませて、あなたの身に
28: 61	律法の書にのせてないもろもろの病気と
28: 65	足の裏を休める…目を衰えさせ
28: 66	あなたの命は…その命もおぼつかなく思う
28: 67	目に見るもの
29: 4	目に見させず、耳に聞かせられなかった
29: 5	身につけた着物は古びず、足のくつは古びなかった
29: 22	主がこの地にくだされた病気
30: 6	こうしてあなたに命を得させられる
30: 9	あなたの身から生まれる者
30: 14	あなたの口にあり
30: 15	命とさいわい、および死と災を
30: 16	あなたは生きながらえ
30: 18	ながく命を保つことができない
30: 19	命と死および…命を選ばなければ…子孫は生きながらえる
30: 20	あなたは命を得、かつ長く命を保つ
31: 7	すべての人の目の前で
31: 14	あなたの死ぬ日が近づいている

31：17	わたしの顔を彼らに隠す
31：18	必ずわたしの顔を隠す
31：19	その口に唱えさせ
31：21	子孫の口にあつて
31：27	わたしが生きながらえて…わたしが死んだあとは
31：29	わたしが死んだのち
32：1	天よ、耳を傾けよ…わたしの口の言葉を聞け
32：5	そのきずのゆえに
32：6	主はあなたを生み、あなたを造り
32：10	目のひとみのように
32：15	肥え太った、足でけた…あなたは肥え太って、つややかになり
32：18	あなたは自分を生んだ岩を軽んじ
32：20	わたしの顔を彼らに隠そう
32：24	飢えて、やせ衰え、熱病と悪い疫病によって…毒にあたらせる
32：25	乳のみ子も、しらがの人も
32：27	われわれの手が勝をえた
32：29	その身の終わりをわきまえたであろう
32：35	彼らの足がすべるとき
32：39	わたしを殺し、また生かし、傷つけ、またいやす。わたしの手から
32：40	天にむかい手をあげて誓う、わたしは永遠に生きる
32：41	手にさばきを握る
32：42	矢を血に酔わせ、わたしのつぎに肉を食わせる…殺された者の血を飲ませ、敵の 長髪の頭の肉を食わせる
32：43	しもべの血のために報復し
32：47	あなたがたのいのちである…長く命を保つこと
32：50	山で死に…ホル山で死んで
32：52	目の前に見る
33：1	モーセは死ぬ前に
33：2	その右の手には燃える火があった
33：3	み手のうちにある…あなたの足もとに座して
33：6	ルベンは生きる、死にはしない
33：7	み手をもって、彼のために戦ってください
33：11	彼の手のわざを…腰を打ち砕いて、立ち上がることのできない
33：12	その肩の間にすまいを営まれる
33：16	ヨセフの頭に臨み…頭の頂にくだる
33：20	腕や頭の頂をかき裂くであろう
33：24	その足を油にひたすことができる
33：27	下には永遠の腕がある
34：4	これをあなたの目に見せる
34：5	モアブの地で死んだ
34：7	モーセは死んだ時、百二十歳であったが、目はかすまず、気力は
34：9	彼の上に手を置いたからである
34：10	モーセは主が顔を合わせて知られた者であった

III. 身体各部位の名称 [使用箇所と回数]

a : 頭部

頭	ראש (rō'sh) 28 : 23 28 : 35 32 : 42 33 : 16 33 : 16 33 : 20	6
髪	ראש (rōsh) 14 : 1 21 : 12	2
長髪	פְּרָעוֹת (p ^e rā'ōth), pl 32 : 42	1
額	14 : 1	1
顔	פָּנִים (pa-nīm), pl 1 : 17 5 : 4 25 : 9 28 : 50 31 : 17 31 : 18 32 : 20 34 : 10	8
目	עַיִן ('ayin), עֵינַיִם ('ēnayim), du. 3 : 21 4 : 3 4 : 9 6 : 8 7 : 19 10 : 21 11 : 12 11 : 18 16 : 19 19 : 21 19 : 21 21 : 7 28 : 28 28 : 34 28 : 65 28 : 67 29 : 4 32 : 10 34 : 4 34 : 7	20
目の前	עַיִן ('ayin), עֵינַיִם ('ēnayim), du. 1 : 30 4 : 34 6 : 22 9 : 17 9 : 18 25 : 3 25 : 9 28 : 31 28 : 31 31 : 7 32 : 52	11
目をとめる	פָּנָה (pānāh) 9 : 27	1
目をあげる	3 : 27 4 : 19	2
ひとみ	אִישׁוֹן ('ishōn) 32 : 10	1
耳	אָזֶן ('ōzen) 5 : 1 15 : 17 29 : 4	3
耳を傾ける	אִזָּן ('a-zan), hiph. 1 : 45 32 : 1	2
口	פֶּה (peh) 8 : 3 23 : 23 23 : 23 30 : 14 31 : 19 31 : 21 32 : 1	7
歯	שֵׁן (shēn) 19 : 21 19 : 21	2
くび	צַוָּאר (tsawwār) 28 : 48	1

b : 体幹部

肩	כַּתֵּף (ka-the-ph) 33 : 12	1
ふところ	חֵיק (chēq) 28 : 54 28 : 56	2
腰	מַתְּנַיִם (mathnayin), du. 33 : 11	1

c : 上肢

手	יָד (yād) 1 : 25 1 : 27 2 : 15 2 : 24 2 : 30 3 : 2 3 : 3 3 : 24 4 : 28 4 : 34 5 : 15 6 : 8 6 : 21 7 : 8 7 : 8 7 : 19 7 : 24 8 : 17 9 : 26 10 : 3 11 : 2 11 : 18 12 : 18 13 : 9 13 : 9 13 : 17 14 : 25 14 : 29 15 : 7 15 : 8 15 : 10 15 : 11 16 : 15 17 : 7 17 : 7 19 : 5 19 : 21 19 : 21 20 : 13 21 : 6 21 : 7 21 : 10 21 : 18 21 : 20 23 : 25 24 : 1 24 : 3 25 : 11 25 : 11 25 : 12 26 : 4 26 : 8 27 : 15 28 : 8 28 : 12 28 : 20 28 : 32 32 : 27 32 : 39 32 : 40 32 : 41 33 : 11 34 : 9	63
み手	יָד (yād) 33 : 3 33 : 7	2
右の手	יָמִין (yāmīn) 33 : 2	1
両手	שְׁתֵּי יָדַיִם, +【名】 כַּפּוֹת 9 : 15 9 : 17	2
から手	רֵעָם (rēqām) 15 : 13 16 : 16	2
手探り	מַשָּׁשׁ (māshash), piel 28 : 29 28 : 29	2
腕	זְרוּעַ (z ^e roa') 4 : 34 5 : 15 7 : 19 9 : 29 11 : 2 26 : 8 33 : 20 33 : 27	8
指	אֶצְבָּע ('etsba') 9 : 10	1
つめ	צִפּוֹרֵן (tsippōren) 21 : 12	1

d : 下肢

ひざ	בִּרְכַיִם (birkayim), di. 28 : 35	1
----	---------------------------------------	---

はぎ	שׁוֹק (shōq) 28 : 35	1
足	רֶגֶל (regel) 8 : 4 11 : 10 19 : 21 19 : 21 25 : 9 28 : 57 29 : 5 32 : 15 32 : 35 33 : 24	10
足の裏	רֶגֶל־רֶגֶל (kaph-regel) 2 : 5 11 : 24 28 : 35 28 : 56 28 : 65	5
足もと	רֶגֶל (regel) 33 : 3	1

IV. 生命に関する用語

部 位	使 用 箇 所	回 数
殺す	מָוֶת (mūth) 1 : 4 2 : 33 3 : 3 4 : 42 5 : 17 9 : 28 13 : 5 13 : 9 13 : 9 13 : 10 13 : 15 17 : 5 17 : 6 17 : 6 17 : 6 17 : 7 17 : 12 18 : 20 19 : 3 19 : 4 19 : 4 19 : 6 19 : 6 19 : 6 19 : 11 19 : 12 20 : 13 21 : 1 21 : 1 21 : 2 21 : 3 21 : 6 21 : 21 21 : 22 22 : 21 22 : 22 22 : 24 22 : 25 22 : 26 24 : 7 24 : 16 24 : 16 24 : 16 27 : 24 27 : 25 32 : 39 32 : 42	47
死ぬ	מָוֶת (māweth), + 【名】 בֶּן (bēn) 2 : 14 2 : 15 2 : 16 4 : 22 5 : 25 5 : 25 10 : 6 14 : 1 19 : 5 20 : 5 20 : 6 20 : 7 24 : 3 25 : 5 25 : 5 25 : 6 31 : 14 31 : 27 31 : 29 32 : 50 32 : 50 33 : 1 33 : 6 34 : 5 34 : 7	25
死	מָוֶת (māweth) 21 : 22 22 : 26 30 : 15 30 : 19	4
死人	מָוֶת (mūth), part. 18 : 11 26 : 14	2
死体	נְבֵלָה (n ^e bēlāh) 21 : 23 28 : 26	2
生きる	חַיָּה (chāyāh) 4 : 9 4 : 10 4 : 33 5 : 3 5 : 24 5 : 26 5 : 26 5 : 33 6 : 2 8 : 1 8 : 3 8 : 3 11 : 9 12 : 19 16 : 20 20 : 16 30 : 16 30 : 19 31 : 27 32 : 39 32 : 40 33 : 6	22
息がある	נְשָׁמָה (n ^e shāmāh) 20 : 16	1

命	נֶפֶשׁ (nephesh) 4 : 26 4 : 40 4 : 42 5 : 16 5 : 33 6 : 2 6 : 24 19 : 4 19 : 5 19 : 21 19 : 21 24 : 6 25 : 15 28 : 66 28 : 66 30 : 6 30 : 15 30 : 18 30 : 19 30 : 19 30 : 20 30 : 20 32 : 47	23
いのち	32 : 47	1
身命	נֶפֶשׁ (nephesh) 13 : 6	1

V. 身体の状態を表す用語

部 位	使 用 箇 所	回 数
生む	פָּרַי (p ^e ri) 4 : 25 28 : 4 28 : 11 28 : 17 28 : 41 28 : 53 32 : 6 32 : 18	8
産む	יָלַד (yālād) 21 : 15 21 : 15 21 : 16 21 : 16 21 : 17 23 : 8 25 : 6 28 : 57 30 : 9	9
後産	שִׁלְיָה (shilyāh) 28 : 57	1
病気	חָלִי (ch ^o li) 28 : 59 28 : 60 28 : 60 28 : 61 29 : 22	5
悪疫	מַדְוֵה הָרָע (madweh hāra') 7 : 15	1
疫病	קֶטֶב (qeteb) 28 : 21 32 : 24	2
肺病	שַׁחֲפֶת (shachepheth) 28 : 22	1
熱病	רֶשֶׁפֶת (resheph) 28 : 22 32 : 24	2
間けつ熱	חָרְחָר (charchur) 28 : 22	1
割礼	מוּל (mūl) 10 : 16	1
去勢	【句】 וְקָרַת שִׁפְכָה וְצוּעַדְכָּא 「傷をもって傷つけ、男根を切った者」 23 : 1	1
病	חָלִי (choli) 7 : 15	1

はれる	8 : 4	1
腫物	שֶׁחִין (shechîn) 28 : 27 28 : 35	2
潰瘍	מַחֹרִים (t ^e chōrîm), pl. K עֲפָלִים, pl. 28 : 27	1
炎症	דַּלְעֶת (dalleqeth) 28 : 22	1
壊血病	גָּרָב (gārāb) 28 : 27	1
ひぜん	כֶּרֶס (cheres) 28 : 27	1
傷	גָּדָד (gādād), hithp 14 : 1 32 : 39	2
きず	מוֹם (mūm) 32 : 5	1
らい病	צָרַעַת (tsa-ra'ath), + 【名】 נֶגַע (nega')	1
盲人	עִוְר (iwwēr) 27 : 18 28 : 29	2
身持ち	זָלַל (za-lal) 21 : 20	1
しらが	שֵׁבָה (sēbāh) 32 : 25	1
処女	בְּתוּלָה (b ^e thūlāh) 22 : 14 22 : 15 22 : 17 22 : 17 22 : 20 22 : 23 22 : 28	7
気が狂 う	שָׁגָע (shāga'), pual 28 : 28 28 : 34	2
毒にあ たる	חֶמָה (chēmāh) 32 : 24	1
いやす	רָפָה (rāphā') 28 : 27 28 : 35 32 : 39	3
肥え太 る	שָׁמַן (shāman), + 【動】 עָבָה ('ābah) 32 : 15 32 : 15	2
やせる	32 : 24	1
裸	עֵרֹם ('ērōm), + 【名】 עֵרְיָה ('eryāh) 28 : 48	1
つやや か	קָסָה (kāśāh) 32 : 15	1

飢える	רָעַב (rā'ēb) 32 : 24	1
-----	--------------------------	---

VI. その他の用語

部 位	使 用 箇 所	回 数
身	בָּשָׂר (bāsār) 1 : 7 1 : 24 1 : 40 1 : 41 2 : 1 2 : 3 3 : 1 9 : 15 10 : 5 14 : 1 22 : 12 23 : 10 23 : 11 24 : 4 26 : 14 28 : 4 28 : 11 28 : 17 28 : 21 28 : 40 28 : 50 28 : 53 28 : 60 29 : 5 30 : 9 32 : 29	26
肉	בָּשָׂר (bāsār) 5 : 26 28 : 53 28 : 55 32 : 42 32 : 42	5
血	דָּם (dām) 17 : 8 19 : 10 19 : 10 19 : 13 21 : 7 21 : 8 21 : 8 21 : 9 22 : 8 32 : 42 32 : 42 32 : 43	12
形	תְּמוּנָה (tēmūnāh) 4 : 12 4 : 15	2
人を造る	אָדָם ('ādām), + 【名】 בְּ- (be-m), בְּנֵי 4 : 32	1
つばき	יָרָק (yāraq) 25 : 9	1

VII. 考察

(1) 身体各部位に関する用語の中で、「手」 יָד が最も多く使われている (63回)。聖書は手の動作をもって種々の表象としている。「わたしは天にむかい手をあげて誓う」(32.40) は、神に対する盟約であり、「そしてその殺された者のある所に最も近い町の長老たちは皆、彼らが谷でくびを折った雌牛の上で手を洗い」(21.6) は、手を洗うことは潔白の表明であった。また、「まことに主の手が彼らを攻め、宿営のうちから滅ぼし去られたので、彼らはずいに死に絶えた。」(2.15) における「神の手」は、神を擬人化し、その力、行為、恩恵、懲罰などについて引用される。次に、多く使われている用語は「目」 עֵינַי である。前述のように、モーセはイスラエルの「人びと」に、「目」の前で行われた神の業を、忘れてはならないと警告しているように、「目」とは神の業を見るためにある。また、神の「手」と、イスラエルの「人」の「目」のこの関わりを、最もよく表しているのが、「あなたが目で見た大いなる試みと、しるしと、不思議と、強い手と、伸ばした腕とを覚えなさい。」(7.19) であろう。

(2) 生命に関する用語の中で、「殺す」 הָרַג が最も多く使われている。旧約聖書の中で、「殺す」という原語が、名詞と動詞その他を含めて 33 種類使われており、その総計はおよそ 500 回におよぶ。新約聖書の中では、10 種類で、総計はおよそ 100 回である。「十戒」の第一は、「あなたの父と母を敬え」である。その第二が「あなたは殺してはならない」である（出エジプト記 20. 12, 13）。「殺す」については、ヘブル社会の犯罪と刑罰の問題に触れなければならない。しかし、ここで本書における用語の使用回数の多い「殺す」や「死ぬ」について考察するためには、ヘブライの「人びと」が「命」 נֶפֶשׁ (24 回) や、「生きる」 חָיָה (22 回) ことについて、彼らの持っていた価値観に触れなければならない。旧約聖書においては、「命」は、生ける神という概念と結び付いている。

イスラエルの神は、生きて歴史の中に働く神である（ヨシュア記 3.11）。異教の神々は、決してこれと同じ意味で生ける神ではない（申命記 32.39, 40）。ヤハウエは死んで蘇る蜜儀教の神とは異なって、常に生ける神である。神が生物から息を引き取ると、それは死んで塵にかえる（詩篇 104.29）。「死」とは、生けるヤハウエの神から絶縁の状態である（詩篇 88.4-5）。それは陰のような領域である。イスラエルはそれゆえ、「死」を美化しなかった。「死」は、生ける神との関わりを中心とするイスラエルにとっては、少しも積極的な意味を持たない。彼らは、「わたしは命と死および祝福と呪いをあなたの前に置いた。あなたは命を選ばなければならない」（申命記 30.19）という神の命令の前に立つ民である。

(3) 身体の状態に関する用語の中で、病気に関する用語が多く使われている。聖書は神からの離反が病気の原因だと説くが、これによって病気のすべてを説明することは出来ない。しかし、罪によって神から疎外された人間が、心の平静を欠き、病気に罹るということは十分理解出来る。では、イスラエルの「人びと」が、「からだ」や医療に対して、どのような考え方や知識をもっていたのであろうか。

ヘブル民族の医学原理は、非常に進歩していたもので、魔法を全然許容していない。しかも病気を実験的見地から考察し、神と患者との間の人格的、靈的相関関係から観察しようとした。レビ人の医学部門の人びとの社会・公衆衛生的専門知識は、高度のものであって、細菌学の発達していなかった当時において、これ以上「らい病」の医学的知見を求めることが出来ない程に、発達していた。ヘブル人は、宇宙の創造者がそれ自身最高の医者であると認識していた。「わたしは主であって、あなたを癒すものである」（出エジプト記 15. 26）とある。現代の医学では、神の与えた回復力を、単に利用するだけであって、回復力を与えた神を究極的な「治療者」とすることは、永遠の真理であると言える。申命記の中に出てくる、イスラエルの一切の「身体の状態」も、神との関係において、すべて受けとったことであろう。

(4) その他の用語の中で、最も多く使われているのが「身」 גִּבּוֹר (26 回)、次いで「血」 דָּם (12 回) である。これらの用語が使われている頻度の傾向は、民数記と全く同じである。「わたしは四十年の間、あなたがたを導いて荒野を通らせたが、あなたがたの身につけた着物は古びず、足のくつは古びなかった」（29.5）や、「もし、彼らに知恵があれば、これをさとり、その身の終りをわきまえたであらうに」（32.29）を見ると、前者は

「からだ」そのものを、また後者では「命」を意味しているように思われる。さらに「血」については、「血」を流すというのがそのほとんどであるが、「血」を飲ませるといふ特別の記事もある(32.42)。旧約聖書の中では、申命記に「血」に関する特別の記事がある。「あなたの神、主が賜わる恵みにしたがって、すべて心に好む獣を、どの町でも殺して、その肉を食べることができる。すなわち、かもしかや雄じかの肉と同様にそれを、汚れた人も、清い人も、食べることができる。ただし、その血は食べてはならない。水のようにそれを血に注がなければならない」(12.15-16)とある。これは、特に人間の流血が厳禁されているのも、「神が自分のかたち人に人を造られたゆえに」(創世記9.6)である。

VIII. 結語

申命記の中から、「人とからだ」に関する用語を逐一拾いあげたところ、総計400回使用されていることが明らかになった。これを次のように分類して、それぞれの使用頻度数を集計した。

(1) 身体各部位に関する用語は161回であった。その中で最も多い用語は「手」 יָד で63回、次いで「目」 עֵינַיִם が20回であった。

(2) 生命に関する用語は128回であった。その中で最も多い用語は「殺す」 הָרַג で47回、次いで「死ぬ」 מָוַת が25回であった。

(3) 身体の状態に関する用語は64回であった。その中で最も多い用語は「産む」 לָדַת で9回、次いで「生む」 לָמַד が8回であった。

(4) その他の用語は47回であった。その中で最も多い用語は、「身」 גִּבּוֹר で26回、次いで「血」 דָּם が12回であった。

そこで、申命記の中の、「人とからだ」に関して使用されている400回の実語が、どの箇所(章・節)において、またどのような原語と内容が使用されているかを検討したところ、次の知見がえられた。

(1) これらの用語は、ヤハウェがすべてのイスラエルの人びとに対して、「全身全霊をもって、絶対服従せよ」という戒めの中に、終始一貫して用いられている。

(2) 申命記には、「からだ」の部分の名称や状態を表す用語は多く用いられているが、ギリシャや近世の「からだ」にあたる用語が用いられていないことが明らかになった。

IX. あとがき

イスラエルの人びとは、ヤハウェ神に選ばれた聖なる民として誇りをもっていた。ところが、いつの間にか誘惑の悪鬼の虜となって、滅びの道へと墮落して行った。その原因はただ一つであった。「人」は神のかたちとして造られたことの忘却である。かれらは工人の手の作である刻んだ像、また鑄た像を拝むことになる(27.15)。それは、ヤハウェが最も憎まれることであった。そこで、モーセはイスラエルのすべての「人」を召し寄せて、戒めの叫びを上げた。これが申命記である。

「あなたはじぶんのために刻んだ像を造ってはならない。上は天にあるもの、下は地にあるもの、また地の下の水の下の中にあるものの、どのような形をも造ってはならない。また、それを拜んではならない。また仕えてはならない。あなたの神、主であるわたしは、妬む神であるから」(5.8-9)とある。ヤハウエの戒めは痛烈である。「主はあなたのひざと、はぎとに悪い、いやし得ない腫物を生じさせて、足の裏から頭の頂にまでおよぼされるであろう」(28.35)とある。「人」の墮落は、ヤハウエ以外のものを拜むことから始まる。これは5000年の人類の歴史が証明する。

イエスは、神を忘れ、偶像を拜むパリサイ人とサドカイ人に向かって「この悪い、神を忘れた時代の人、徴をほしがる」(マタイ16.4)と戒めた。また、イエスは「この時代の人、なぜ徴を求めするのであろう」(マルコ8.12)と嘆いている。この発言から2000年たった今日もなお、現代人は躍起になって「徴」ばかりを追い求めているのはなぜであろうか。

□ 本文中のヘブライ語の字母は平沢所有のものを使用。

参考文献

- 1) Interlinear Hebrew-English Old Testament : KREGEL REPRINT LIBRARY by George Ricker Berry (1975)
- 2) JAMES MOFFATT : THE MOFFATT TRANSLATION OF THE BIBLE, CONTAINING THE OLD AND NEW TESTAMENTS (1964)
- 3) NOVUM TESTAMENTUM GRAECE : BESTLE-ALAND. 26 th. (1979)
- 4) THE NEW ENGLISH BIBLE : OXFORD UNIVERSITY PRESS. CAMBRIDGE UNIVERSITY PRESS (1970)
- 5) RUDOLF KITTEL : BIBURIA HEBRAIKA (1937)
- 6) 関根正雄訳：出エジプト記、岩波文庫 (1969)
- 7) 旧約聖書：日本聖書協会 (1956)
- 8) 聖書語句大辞典：教文館 (1959)
- 9) キリスト教大辞典：教文館 (1968)
- 10) 新聖書大辞典：キリスト新聞社 (1971)
- 11) Alfred Rahfs : SEPTUAGINTA, EDITIO SEXTA (1931)
- 12) 平沢彌一郎、白井永男：古典の中の人とからだ(1)―詩篇の中から―、放送大学研究年報(5)：91-113 (1987)
- 13) 平沢彌一郎、白井永男：古典の中の人とからだ(2)―創世記の中から―、放送大学研究年報(6)：121-134 (1988)
- 14) 平沢彌一郎、白井永男：古典の中の人とからだ(3)―出エジプト記の中から―、放送大学研究年報(7)：89-109 (1989)
- 15) 平沢彌一郎、白井永男：古典の中の人とからだ(4)―レビ記の中から―、放送大学研究年報(8)：37-54 (1990)
- 16) 平沢彌一郎、白井永男：古典の中の人とからだ(5)―民数記の中から―、放送大学研究年報(9)：19-40 (1991)
- 17) 平沢彌一郎：福音書異同一覧、山本書店 (1981)
- 18) 平沢彌一郎：聖書を読む、論創社 (1987)

- 19) 平沢彌一郎：小使徒，小使徒社（1989）
- 20) 平沢彌一郎：小使徒巻頭言集，論創社（1992）
- 21) J. Robinson：The Body, p. 11, n. 2（1952）
- 22) 真方敬道：古代思想にあらわれたひとと体，聖書とその周辺，伊藤節書房，251-271（1959）
- 23) 関根正雄訳：ゼリニロスト：旧約聖書総論，待晨堂（1965）
- 24) 関根正雄：旧約聖書，創元選書・創元社（1966）
- 25) 田中理夫：申命記，旧約聖書注解シリーズ，新教出版社（1958）
- 26) 山本七平訳・ウェルネ・ケラー：歴史としての聖書，山本書店（1958）
- 27) 山本七平訳・F. ジェイムズ：旧約聖書の人びと I，山本書店（1985）

（平成4年11月16日受理）